

研修のまとめ（記録様式2）

1 看護実践

対象の望む生活を実現するための円環的アプローチ	療養生活サポートの必要性がある人を特定する 自立した生活に向けての情報収集と問題を明確化する 変化に応じた継続的支援のためのモニタリングと評価をする
生活安定のための病状管理	症状が安定するようコントロールする 生活の仕方に合わせた安全な医療処置の仕方を考える 病状に合わせた基本的な生活ニーズの充足を考える
利用者が生活者として主体的に生活できるようにする支援	今後の療養場所における利用者の希望を確認する 利用者ができることをやってみようと思えるように支援する 利用者を社会的存在として捉え、自己管理方法を確立する 利用者が自身の健康状態を認識し、生活の変化を自覚できるように支援する
家族のセルフケア能力を高める支援	家族の事情を理解する 利用者の希望を家族が理解できるように支援する 利用者と家族が互いの考えを理解し、方向性を見いだせるように支援する 利用者と家族の関係性をモニタリングし、互いの役割を見いだせるように支援する
利用者中心のケアを実現するためのチームアプローチ	目標達成に貢献するチームを編成する チームで方向性を明確にするための情報共有と合意形成の場をつくる 生活ニーズとサービスをつなぐ方法を提案する チームのメンバーシップを育てる

2 継続看護のアウトカム：帰結の実際

利用者・家族の新たな生活の再生	生活の安定 <ul style="list-style-type: none"> ・症状の安定 ・生活リズムの獲得 ・ADLの維持・改善 利用者・家族のセルフケア能力の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者・家族の自立した生活行動が増える ・利用者・家族が自分のやり方を見いだせる 家族とともに新たな社会関係の形成 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者と家族の相互理解 ・利用者・家族の主体性と自立性の獲得 ・地域との関係性の再構築
系統的チームアプローチの実践	アプローチ方法の明確化 <ul style="list-style-type: none"> ・個別性を踏まえた継続看護 ・タイミングのよい介入 チームケア体制の構築 <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの役割認識の変化 ・協動的な連携体制